２０１６年度

長期インターンシップ

報告書

実務研修期間：9 月 23 日～1 月 27 日

■前橋市　ごみ減量課
　　にぎわい商業課　まちなか再生室
　　選挙管理委員会事務局
　　市立図書館
■サンデン環境みらい財団
■エアームーブ住宅　司建設株式会社
■NPO 教育支援協会北関東
■日本赤十字社　前橋赤十字病院

共愛学園前橋国際大学
COC 推進本部事務局

目　　次

Ⅰ．長期インターンシップ２年目の充実に向けて　～２年目の挑戦～…… 2

Ⅱ．２０１６年度　長期インターンシップの流れ…… 3

Ⅲ．事前研修
１．研修先関係者との顔あわせ会　…… 4
２．事前研修会
(1)ファイルの作成　…… 4
(2)前年度研修生から後輩へ　…… 5
(3)プレゼンテーションと発表会　…… 9
(4)マナー研修　…… 10
(5)取材型インターンシップと併用（政策部・教育委員会）　…… 10

Ⅳ．実務研修
１．研修生「受け入れ式」　…… 11
２．連絡会 …… 11
３．中間報告会 …… 12

Ⅴ．事後研修
１．事後研修会 …… 17
２．成果報告会 …… 17

Ⅵ．評価と成果
１．学びの自己評価 …… 18
２．教育的な効果　…… 20
３．学生の声（研修生８名）　…… 22
・長期インターンシップに参加した動機・きっかけ
・インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと
・インターンシップで学んだことをもとに、今後の大学生活で活かしたいこと、取り組んでみたいこと
４．研修先の担当者からのコメント …… 32

Ⅶ．まとめ …… 35

Ⅰ．長期インターンシップ２年目の充実に向けて

～２年目の挑戦～

昨年度からスタートした４ヶ月の長期にわたるインターンシップも２年目を迎えた。本年度は学生・研修先も５名４業種（昨年度）から８名８業種（２業種は兼務）に増加し、学生のニーズに応えるとともにインターンシップの充実が図れるよう研修先との一層の連携強化に努めてきた。

本年度は前年度、報告書にまとめた成果と課題を踏まえ、学生、行政・企業、大学、それぞれの立場から研修内容を検討し、事前学習・実務研修・事後学習において、以下のように研修方法・内容等のプログラムの充実・改善を図った。

事前学習ではこれまでと同様に研修先との打合せを綿密に行うとともに、事前学習前に「顔あわせ会」を行い、企業等の概要説明や学生に期待すること・心構え等を伺うことで、学生のモチベーションを高め、ねらいや目当てを持って取り組む事ができるよう努めた。そのことを踏まえ、事前学習ではプレゼンテーションにより自己のねらい・目的（初発のミッション）を明らかにさせて、発表会で決意表明を行うようにした。さらに前年度研修に参加した学生を講師に迎え、学生の視点からアドバイスやポイント等、実体験をもとにした話を聞いたり、マナー研修を行ったりすることにより、今後の実務研修がより実効的なものになるように取り組んだ。また、本学でこれまで実施してきた「取材型インターンシップ」実習と併せて取り組むことで（市役所関係の４名が該当）、担当課だけにとどまらず、市政全体に関わる施策や諸課題について担当部長、教育長から聴取を行うなど幅広い知見を得る場を設定した。そのことにより、広汎的に事象を捉え課題解決していこうとする態度や能力を身につけることができた。

実務研修の初日では、「受け入れ式」等を開催し、学生生活から就業へと意識の転換を図らせるよう場を設定した。実務研修中は、これまで同様に研修先の指導担当者と連絡を取り合う「連絡会」等を設けたり、学生の実習の様子を確認する「中間報告会」等を設けたりしながら一層きめ細かに対応してきた。

事後学習では実務研修を通して得られた成果と課題を明らかにするため、グループワーク等、協働学習により共有化を図りながら進めていった。成果物としてパワーポイントにまとめ報告会を開催する。報告会では研修先の方々や大学関係者等の出席により、研修生の報告をもとにして協議を行い、年度末に評価委員会を開催し本事業のまとめと次年度に向けての示唆・提言を頂く計画である。

主なプログラム

- **「顔あわせ会」で目的・ねらいの明確化**
- **事前学習会のまとめとして、「ミッション（初発）と決意の表明」**
- **「前年度研修生からのアドバイス」「マナー研修」等によるモチベーションの高揚**
- **「取材型インターンシップ」との併用による広汎的視点としての捉え**
- **「受け入れ式」による就業に対する意識の転換**
- **「連絡会」「中間報告会」による相互理解ときめ細かな対応**
- **「グループワーク」等、協同学習による課題の共有化**
- **「報告会」による成果と課題の明確化**
- **「評価委員会」からの示唆・提言**

Ⅱ．２０１６年度　長期インターンシップの流れ

～研修生の取り組み～

・ねらいやめあてを持つ

○事前研修会（9/15～9/21）

・研修先の理解

・自己理解

・日程等、実習に向けての留意事項の確認

・実習の全体把握とミッションの確認

・ミッション、モチベーションの高揚

・幅広い知見

事前研修

○研修先関係者との顔あわせ会

・目的・ねらいの明確化

○研修ファイルの作成

①研修先の概要　②自己分析（強み：長所、得意　弱み：短所、苦手）アピールポイント　③自己PR　④志望動機　⑤主な実務研修スケジュール　⑥通勤方法・経路　⑦勤務時間・緊急連絡先　⑧実務研修担当者　⑨実務研修日等スケジュール

○プレゼン資料作成

○前年度研修生からのアドバイス

○マナー研修

○取材型インターンシップ

・政策部長、教育長

○実務研修（9/23～1/27）

・学生生活から就業へと意識の転換

・実習

○中間報告会（10/10・11/23）（12/23）

・自己点検、振り返り

・課題や解決策等の共有

実務研修

○受け入れ式

○日報の作成（担当者から検印）

○連絡会

・研修先担当者等と大学担当者で研修生の取り組み状況や研修の推進について情報交換を行う

○振り返り、課題解決・方策

・研修生の研修状況等についてそれぞれ報告し合い、課題や改善点等について共有する

○事後研修会（2/6～2/10）

・実習のまとめ

○成果報告会（2/14）

・研修の評価

事後研修

○まとめ

・グループワーク等で成果と課題についてまとめ共有する

○成果報告会

・研修のまとめを研修先の方々や大学関係者等にプレゼンで発表し成果と課題を明らかにする

○評価委員会

○次年度に向けての構想

Ⅲ．事　前　研　修

1．研修先関係者との顔あわせ会

事前研修前に研修先関係者との「顔あわせ会」を行い、行政や企業等の概要説明や学生に期待すること・心構え等を伺うことで、学生のモチベーションを高め、ねらいや目当てを持って研修に取り組む事ができるよう努めた。

顔あわせ会で聴取した事を基にして事前研修ではパワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行い、研修のねらい・目的（初発のミッション）を明らかにさせるとともに、発表会を開催し、４ヶ月の研修に向け決意表明させ、課題意識を持ち積極的に参画できるようにした。

・実施期間：８月 22 日～26 日（1 時間程度）

・実施場所：各研修機関、企業へ訪問

2．事前研修会

(1)ファイルの作成

○作成の趣旨

・これから始まる実務研修に向けて、実習先を調査したり自己理解に努めたりするなど、実習の目的や意義などを明確にするとともに、研修意識の高揚を図る。

・作成を通して、事前の心構えを持つとともに、実務の見通しや計画を立て研修がスムーズに行われるようにする。

・研修終了後を振り返り、成果としてまとめ、今後の大学生活をより充実し、生活や学習の指針とする。

○作成期日：9 月 15 日～21 日

○記載内容

①実習研修先の情報（概要）

・市役所・企業・団体の経営、運営方針。仕事内容・サービス内容。収益（売り上げ、来客人数等。

・ホームページ等で検索したり、事前の「顔あわせ会」で聴取したりしたことをまとめる。

②自己分析

・強み、弱みを率直に書き出す。友人や親などに聞くのもよい

【アピールポイント】

・すべてよいところがアピールポイントでなく、弱みもアピールポイントになることもある。（消極的で人と接するのが苦手　→よく考えてから行動する。相手の考えや気持ちを理解してから行動する等）

③自己 PR

・どのように活躍できるか。

職場のなかで自分をいかに活かせるか、よさを発揮できるか、職場にとけこませていけるか（協調していくか）等、相手に自分を理解してもらう視点でまとめる。

④志望動機

・やりたいこと：事前調査や顔合わせで得たことから、やってみたいこと。

・できること：自分のこれまでの知識や経験をもとにできそうなこと。

・研修先を選んだ決め手：仕事内容、職場の雰囲気、評判、職員の仕事ぶりや対応等。

【研修先との顔あわせから】

・説明を受けての新たな気付きや学び。
ホームページや資料だけでなく話を聞いて分かったことなど。

・研修生に期待すること（担当者から）
担当者の説明や話から何を期待しているのか。

・所感（ミッション等）
担当者の期待に添うために取り組んでみたいこと。

⑤主な実務研修スケジュール

・研修先の担当者と打合せをして、大まかな仕事内容や仕事場所、目的等、４ヶ月の計画を把握する。

⑥通勤方法・経路

・通勤手段、使用経路、乗車・降車駅等。

⑦勤務時間・緊急時連絡先

・曜日毎の勤務時間。

⑧実務研修担当者

・欠席や不測の事態が発生した時の連絡先。

・発生した時は、担当者及びＣＯＣ事務局の２カ所に必ず連絡する。

⑨実務研修日等、スケジュール

・研修、事前・事後学習会、成果報告会等、明記する。

⑩日報

・毎日、記入し、その日のうち、又は翌朝に担当者に報告し、検印を押印。提出日は担当者と相談。

⑪実務研修を通して気付いたこと、発見したこと

・組織として、個人として（職務内容、生き方、考え方、接遇、マナー等）。

⑫今後の学生生活で生かしたいこと

・学び方、生き方、将来設計等について記述する。

⑬コメント・講評

・担当者から実務研修終了時に取り組み状況等記述してもらう。

〇その他

・必要な資料やデータ等を添付、保存しておく。

(2)前年度研修生から後続者へ

昨年度、長期インターンシップに取り組んだ一期生の学生たちに、研修から１年経った今、客観的に自己を見つめ、後輩に伝えておきたいこと等を振り返ってもらい、本年度の研修生に向けての心構えやポイント、研修後の変容や活躍等、二期生の研修に当たって参考になる示唆を得る機会を持った。要約したものは以下の通りである。

○アドバイス・ポイント

・対人関係の重視（挨拶、言葉遣い、協力体制、相手の意見の尊重、感謝の気持ち）
・時間厳守と時間の大切さ（時間前行動、規則正しい生活、気持ちの切り替え）
・情報収集（時事問題への関心、報告・連絡・相談）

○長期インターンシップ後の大学生活での意識の変化

・挑戦する勇気
・自分で考え、行動する積極性
・人脈の広がり
・向上心
・大学での学び方、考え方の変容

○大学内外での活躍

・サークル活動等の充実
・県・市等、主催事業、活動への参加

◎前年度研修生から後輩へのアドバイス･ポイント

〔F･Kより〕

・是非多くの**失敗**をしてきてほしい。
失敗の中でしか得られない知識・経験がある。その知識・経験を忘れずに生活していれば、今後の就活や社会人生活に良い影響を与える。

・**時間・挨拶**を守ってほしい。
出勤の時間に関して、規定の出勤の最低でも 10～20 分前には出勤し、朝は大きな声で挨拶を行う。これらにより心に余裕が生まれ、仕事に取り組むやる気につながる。

・一つ一つ、細かい事への**感謝を伝えて**ほしい。
上司の方は忙しい中、インターン生へ時間を割いて頂いているので、共愛学園の代表としてお礼をするつもりで行う。

〔C･Yより〕

・**挨拶**はできて当たり前の事だが、社会人になったら今まで以上に大切なものであり最も常識的なことである。（お互い**良い気持ち、笑顔、会話のきっかけ**となる）

・どんなことにおいても**事前準備・学習**は大切であり、役に立つ。

・長時間仕事をしていると、集中力がもたない。時には一息つくことも大切である。そのときはしっかり時間を決めて、**ON と OFF の切り替え**をする。

・分からないこと、知らないことはあっても当然のことである。その時は**上司に相談**すること。時には**自分で調べる努力**をすることが大切である。

・ただ待っているだけではなく、自分から**進んでコミュニケーション**をとる。**「話し上手」「聞き上手」「聞き出し上手」**になる。

・私たちが任されている業務は内職のような仕事、小さな仕事がほとんどである。しかし、どの仕事もその会社にとっては大切なことで、常に**責任感**を持って取り組むこと。

・仕事に**失敗はつきもの**。私も、数え間違いを繰り返し、書類の誤字などをしてしまったことが多々あった。その時は素直に謝り、今後**同じ間違いを繰り返さない**よう

意識する。

・私たちは業務の時間が決められている。その中で仕事をしなければならない。**何を優先**していくか、**計画を立てて**取り組んでいくことが大切である。

・会社には様々な人が働いている。自分の意見を言うこともちろん大切であるが、**相手の意見を尊重**することはもっと大切なことである。

・それぞれの人が、それぞれの**仕事に対する思い**や、お客様に対する思いを持っている。それを聞くこと、感じることはとても勉強になる。

・仕事は自分だけの力でやっているわけではない。「お客様のために」「役に立つために」**自分で考え、仲間と協力し合い、行動**していくことが大切である。

・**幅広い視点**から物事を見ることが大切である。

・誰にでも**苦手なものや不得意**はあると思う。しかし、会社やお客様と関わる中では、それは通用しない。それをどう**克服**し、関わっていくかが重要である。

・**自分の弱点**を知る機会である。

これらのことはアルバイトをしていれば、なんとなく頭では理解しているつもりでいると思う。しかし、「大学生」としてではなく、「社会人」として業務に取り組む4ヶ月間は現実を突きつけられることも多々あります。私が1番アドバイスをしたいことは、**笑顔**で取り組んでほしいということである。

〔M・Fより〕

・常に良い成果を出せるよう、**自分で考えて行動**する。

・積極的に職場の人と話し、自分に有益となる**情報を引き出す**。

・ほうれんそう**「報告・連絡・相談」**を徹底する。

・常に**自分をアピール**しながら行動をする。（出勤・退勤する時は元気よく挨拶をすることを心がけ、常に笑顔で接するなど）

◎長期インターンシップで変わった自分（性格、態度、見方・考え方）

〔F・Kより〕

・**周囲を冷静**に見渡せるようなった。

・失敗しても、次に**挑戦する勇気**が生まれるようになった。

〔C・Yより〕

○インターンシップを始める前の自分

・大学生活に満足していない。

・大学にいる時間より、外にいる時間の方が長かった。

・夢や将来も具体的に決まっていない。

・人前に立つこと、自分の考えを言葉にすることが苦手。

・積極性がない。

・新しい出会いを求めない。人脈を広げようとしない。

・とにかく自分自身に自信が持てない。

○変わった自分

・一歩踏み出したことで、**人脈が広がった。**そのおかげで、大学にいる時間も増えた。

・狭い殻に閉じこもっていたが、いろんな人と関わり、話を聞いていくうちに、**大学での学び方、考え方が変わった。**

・不得意や苦手をそのままにせず、少しでも克服したいと思うようになり、口だけではなく、**行動に移す**ようになった。
・バイト中に、お客様との**接客の仕方**や、**仕事に対する姿勢**が変わった気がする。（気遣い、臨機応変さなど）
・**自分の意見**もしっかり言えるようになってきた。
・**社会の動き**に目を向けるようになった。
・親の大変さが分かった。**親に対する感謝の気持ち**を強く持つようになった。
・何事にも**目標を持つ**ようになった。
・**時間の使い方**が変わった。無駄な時間を作らないようになった。
・就活関係の授業を履修し、職業や就職について自ら**進んで調べたり**、先輩方に**積極的に話を聞く**ようなったりした。

〔A・Y より〕

・**時間前行動**ができるようになった。
・以前と比べると人前で話すとき**緊張しなくなった**。
・どんなに小さいことでも**報告・連絡・相談**するようになった。
・最後まで**人の話を聞く**ようになった。
・**言葉遣い**が以前より良くなった。

〔M・F より〕

・**社交的**になったこと。（インターン前は人見知りで人と接することが苦手だった。しかしインターン中にたくさんの人と関わりを持ったことで人見知りは克服され、自分から積極的に話せるようになった）
・高い**向上心を持つ**ようになった。（インターン中、未熟さを痛感したためもっと成長したい、変わりたいと思うようになった）

◎長期インターンシップ後に大学内外で取り組んできた(いる)活動

〔F・K より〕

・**サークル活動**（ECO keeper の代表をしている）に積極的に取り組んでいる。
・**けぇろう祭**（前橋中央商店街で行われた、本学の PR イベント）に参加。
・**４５days**（前橋で行われる 45 日間連続で行われる地域最大級のイベント）に参加。

〔C・Y より〕

・今まで学校の活動には一切参加していなかったが、現在は、人に教えることへの苦手意識をなくしたいと思い、**ラピタデスク**の一員として活動している。
・県が行っている**「ぐんま学生会議」**に参加している。群馬県内にある大学生とワークバランスについて男女共活躍できる社会の実現に向けて話し合いを行っている。
・取得したい**資格の勉強**をしている。
・大学生は社会人と違って、自由な時間があることをインターンシップに行くと感じる。その**時間を活用**して、趣味に没頭している。
・**友達との時間**を更に大切にしている。

〔A・Y より〕

・**ぐんま学生会議**に参加している。

・以前から参加させて頂いた**サークルに積極的**に参加するようになった。

〔M・F より〕

・毎日、**新聞を読む**ようになった。（時事問題に興味を持つようになった）

・実習中に学んだことを実践している。

（学んだこと）人口減少問題・女性の社会問題等

（実　　践）**ぐんま学生会議・ぐんまシューカツ net 編集記者等**

他、**五つ活動**を実施している。

(3)プレゼンテーションと発表会

■プレゼンテーションとは

・情報伝達手段の一種で、聴衆に対して情報を提供し、理解・納得を得る行為。

・相手に自分の意見や情報を伝え、理解し、納得し、行動してもらい、それにより自分の目的を達成すること。

○パワーポイントに盛り込む主な内容

①研修先の行政・企業の特徴

・研修生から見た魅力

・目指す行政・企業の姿

・経営者・担当者の声

②調査、顔あわせをした感想

③研修への抱負・決意

〔留意事項〕

・事前学習で作成したファイルを基にパワーポイントを作成。

・一枚のパワーポイントスライドで主張し、言いたいメッセージは一つにする。

・構造を単純にする。

・図式化する。

■発表会

・**趣旨**

これから行われるインターンシップに向けての心構えや見通しを持たせる。研修先の仕事内容等の概要をまとめ、個々の研修の目的や意義、計画などを明確にし、研修者全員でミッションを共有するとともに、研修意識の高揚を図り、長期インターンシップにスムーズに移行できるようパワーポイントを作成し、相手に納得・理解してもらう情報を発信する。

・**日時**

9 月 20 日（火）・21 日（水）　10：30～14：30

・**場所**

1213 室

・**発表時間**

一人 10 分以内で発表。発表後、学び合い。

(4)マナー研修

○ねらい

インターン先の行政や企業に迷惑をかけないよう、最低限の社会人マナーを身に付ける。

実際の場面を想定して対応する側と対応される側、それぞれの立場を実演し言葉遣い等が相手にどのような印象を与えるのか自ら気付き改善していけるようにする。

ロールプレイを行うことで行動や態度、言動について自覚し接遇を身に付ける。

○期日

9 月 15 日（木）、16 日（金）

○研修内容

身だしなみ、挨拶、名刺交換、持ち物、約束の時間、受付、社員とすれ違うときなど、言葉遣いとコミュニケーション等、ビジネスマナーについて学ぶ。

電話対応についてスクリプトをもとにロールプレイを行い、ビジネスマナーを身に付ける。

(5)取材型インターンシップと併用（政策部・教育委員会）

○趣旨

本大学でこれまで実施している取材型インターンシップに併せ、行政で研修する学生 4 名が、政策部長、教育長に取材を行い、研修先の部署だけでなく市政、教育行政全般について理解を深め、包括的、総合的に現状や推進状況等を把握し幅広い視点から実務研修を俯瞰し取り組んでいこうとする態度を育てる。

○期日

9 月 16 日（金）

○内容

主な質問項目として、行政の概要（事業内容、政策部・教育委員会の特長、優位性等）。前橋市（政策部・教育委員会）として力を入れていること。他市と比べた前橋市の特徴。学生から見た魅力（働きがい、やりがい、職場の雰囲気、将来像）。働きがい、やりがい等。職場の雰囲気等。将来像。目指す行政の姿、経営理念、経営戦略、ビジョン等を伺った。最後に政策部長、教育長から学生に対して（期待する学生像、学生時代にやっておくべきことなど）アドバイスを頂いた。学生にとって部署のトップの方から直接お話を伺うことができるなど貴重な体験ができた。

Ⅳ．実　務　研　修

1．研修生「受け入れ式」

長期インターンシップ受け入れに当たり、前橋市役所では主幹課長及び研修先担当者の臨席のもと、研修に当たっての心構え等、留意事項の説明等を伺うとともに、研修生一人一人から研修に当たっての決意や抱負を表明することで、学生生活から就業へと意識の転換を図り、スムーズにインターンシップへの移行ができた。

○期日　9 月 23 日　（8:45～）

○場所　市庁舎 31 会議室

2．連絡会

研修先の指導担当者と連絡を取り合う「連絡会」を定期的に設け、学生の取り組み状況や健康状態等を把握する。必要に応じて随時話し合いを設ける。

○主な内容、

・研修生の健康面（体力面・精神面）
・仕事の取り組み状況
・職場での対人関係
・ビジネスマナーの定着、協調性等

○開催期日

月 1 回程度。

○仕事の取り組み状況について

個々の研修先で異なるが、職場環境に馴染みながら積極的に接客や諸行事やイベントに参加して取り組む姿が見られる。職場の担当者の指導を受けながら当初は仕事内容を覚えることに精一杯であったと思うがまじめに取り組んでいる。まずは職員とのコミュニケーションを図り組織の一員としての自覚と協調性を持って取り組んで行くことが大切である。

研修が進行する過程で担当者の指示待ちから自分で仕事を見つけたりよりよい活動を目指して自己変革を図ろうとする姿がみられるようになってきたりしている。職場によっては、今後、自分から積極的に職場の雰囲気に溶け込んでいこう（休憩時間や昼食時など積極的に話の中に入っていくなど）とする態度がみられるとよいという示唆も頂いた。各研修先の担当者からは研修生の取り組みを評価していただいており、受入側としては、研修生の姿から、職員が初心に返って仕事を振り返る機会を与えられた。職場に活気が生まれたなど、インターンシップの研修先での効果も伺うことができた。

○配慮事項

・コミュニケーションを大切した職場環境づくり（対人関係・協調性の重視）に努めている。
・仕事を固定化しないで多くの仕事を体験させるようにしている。
・窓口に近いところに配置、市民や若い職員とコミュニケーションがとれるようにしている。
・事業について学生の視点で出来ることや啓発について提案できるようにしている。

3. 中間報告会

実務実習の取り組み状況を確認する「中間報告会」を設定し、研修先での様子等を互いに報告し合い、成果や課題、解決方法等、情報を共有し、今後の実習に活かしていく。

(1)第1回中間報告会

・期日

10 月 10 日（月）10:00～14:30

・内容

インターンシップ開始２週間後に設定し、学生たちが新しい職場、生活の中で、人間関係を構築したり仕事内容を理解したりすることがスムーズにいっているかを把握し、課題や悩み等への早期の解決が図れるようにするとともにビジネスマナーやルールを守りながら生活していくことの大変さに気付き、実践できるようグループ討議を行った。

【研修を通しての気付き、感じたこと】

・仕事の中に面白さがある。
・仕事には責任が伴う。
・仕事内容を覚えるのに難しさを感じる。
・イベント等、楽しいが接客や準備は大変である。
・名刺交換ができると嬉しい。
・職場の人が優しく気を遣ってくれているのが分かる。
・文章を考えるのは難しい。必要以上に言葉に注意している。
・相手のことを考える大切さやコミュニケーションが必要である。
・社会のルールが守られていないなど、現実を思い知らされた。
・色々な経験ができるよう配慮してもらっていることに感謝している。

【振り返り・反省】

・敬語が使えない。
・効率的に仕事をする仕方が分からない。
・調べても、調べても足りない。こんなに仕事ができないと思っていなかった。
・一つの事に集中しすぎて他に手が回らない。
・分からないことがあっても聞きづらい。
・データ等、打ち込む仕事があるが単調で自分で考えて行うことが少ない。
・早く作業をこなすことが求められるので大変である。
・資料に入力するのに間違えないよう気を遣いながら、判断が自分では難しいことが多いので神経を使う。

■考察

学生たちは、各職場で多くの方々が温かく向かい入れ、気遣いをして頂いていることを感じ取っており、積極的に研修に取り組んでいる。自己を振り返り、課題解決に向け意見交換を行う中で、やらされている、やらなくてはならないという意識から、感謝の気持ちや仕事を楽しむというプラス思考でポジティブに意識を転換していくことの重要性が指摘された。また、職場の人間関係や一つ一つの言動に責任が課せられること、仕事内容の理解等にストレスを感じていることが分かった。

(2)第２回中間連絡会

・期日

11 月 23 日（水）10:00～14:30

・内容

インターンシップも２ヶ月が過ぎ、折り返しとなったこの時期に更なる活動の充実を図るために、これまでの取り組みを振り返り、互いの成果や困っていること、悩んでいることを出し合いながらよりよい改善策や取り組み等を情報交換しながら解決策を見いだしていく。自己評価を行いインターンシップの前半の成果と課題を明らかにし、後半の取り組みに活かしていく。

インターンシップの自己評価として、どのようなスキルが身につき、今後どのようなスキルが必要なのか振り返る。主な振り返りは以下のようである。

◎インターンシップを体験してみて、自分に身についていると感じたスキル。

【コミュニケーション力・発進力】

・分からないことなど、要点をまとめて聞くことができるようになってきた。

・他県、他大学や異文化の人々と関わり、コミュニケーションを取ることが楽しいと思うようになった。

・職員と仕事内容の会話や日常の生活の様子等、オン・オフに関わらず話せるようになったり、仕事で協力し合ったり、人間的な関わりをもって仕事ができるようになった。

・来館者に積極的に声かけをしたことで当日申込みのなかった人までもイベントに参加していただいた。

【人と社会への関心】

・企業とはどういうものなのか少し分かってきたように思う。他の企業の方との打合せに参加し、地域や就職について深く考えるようになった。

・多くの人たちや環境の異なる中で仕事をすることの大変さに気づいた。

・イベントに参加することが多く、新聞でもイベント開催記事が気になるようになった。

【情報リテラシー】

・パソコンを使うことが多く知識が高まった。

・企画を立案するに当たり資料を探し、必要な情報かどうか吟味するようになった。

【読解力】

・資料やホームページに載せるために、読者が何を必要としているかを探し、書き出すことで資料理解とともに自分の理解にもつながることが分かった。

【マネジメント力】

・生活は時間が限られているので大学の課題ややらなければならないこと等、効率を考えて早めにやるようになった。

【主体性】

・自分から進んで挨拶ができるようになってきた。

【チームワーク】

・何かあったら「ホウレンソウ」を心がけ実践し、他の課の人ともコミュニケーションがとれるようになった。

【傾聴力】

・電話対応時、相手が何を言いたいのか要点を押さえメモを取り聞くようになった。

【課題発見力】

・繰り返しの多い業務の中でできるだけ多く処理できるよう工夫したことで安定した量の業務ができた。

【課題解決力】

・言われてことに対して、すぐに聞かずに自分で考えてから行動するようになった。

【論理的思考力】

・書架の本を整理する際にどこの本をどう動かせば収まりがよいか考えることによって少しは鍛えられた。

◎もっと身につけるべきだと感じたスキル。

【マネジメント力】

・インターンシップでは、それほど大きな失敗はしていないが、大学生活での自己管理が全くできていないので、今から直したい。

・やることや考えることが多く、自分がいつ何をすれば良いのか分からなくなってしまうことがよくある。

・インターン、授業など時間がない中で計画的に物事を行えるようにしたい。

【自己表現力】

・自分の意見を主張することはできるが、適切な言葉で相手にきちんと分かるように伝えることが大切である。

・挑戦してみたいこと、やってみたいことをなかなか言えないのでもっと表現力をつけたい。

【課題発見力】

・課題というものが与えられていない時、自分から探していくことが大切である。

・やるべきことにノルマを設けていくようにしたい。

【主体性】

・繰り返しの業務の中で異なる業務にも恐れずに取り組んで行くことが必要だと感じた。

・担当の方から主体性をつけるよう話があるが、足りていないので身に付けたい。

【コミュニケーション力・発進力】

・子どもに分かり安く物事を伝えたりコミュニケーションをとったりする力が必要である。

・分からないことなどを聞くときに整理をして聞くようにしたい。

【読解力】

・長文を読んでまとめなくてはいけない時、資料を読み取る力が重要だと思った。

【世界への関心】

・メンターの方から世界の動向など気にするようにと言われるが、行動に移せていない。

【情報リテラシー】

・パソコン系のトラブルがよくあるので、その時に対応できるように知識をつけたい。

【傾聴力】

・市民、住民の方から相談を受けたが、聞かれた内容をうまく聞き取れなかったことがあったのでしっかり聞き取る能力をつけたい。

◎総合評価（学び、成果、課題、特記事項等）

・朝のあいさつ、身だしなみなど社会的ビジネスマナーなどを守るようになった。
・チームワークが大切であり、個々でやっているとしても相手に報告・連絡・相談をすることが大切だということが分かった。
・社会人の方は責任を持って仕事をしていると感じた。
・単調な仕事になりがちなので自分でノルマを設けるなどして目標設定していくことが大切だということが分かった。
・職場では私のために仕事を作ってくれているので、多くの人のお陰でインターンができており感謝の気持ちを忘れずに仕事に取り組んでいこうと思った。
・インターンと学生生活をバランス良く送ることが大きな課題だと思う。良い機会だと思うのでこのインターン中に絶対に（上手に時間を使うことなど）克服したい。
・市役所と聞くと「事務作業」というイメージがあったが、インターンシップを通して、役所は様々なことをやっており、以前より役所の業務内容に関する理解が深まった。
・学生や外国人の方など社内だけでなく、外部の方々と関わる機会が増えた。
・私は、今まで提出期限は守ってはいたが、ギリギリのことが多く、私が提出を求める立場になって大変さが分かった。
・相手のことを考えて行動する必要があると思った。電話対応では顔が見えない分、より相手のことを考えてどう対応すれば印象良くなるかなど考えるようになった。
・繰り返しの業務が多いがどうすれば効率が良く終わるか考えることが必要である。

◎その他（実習について気づいた点、要望など）

・自分は主体的に動けると心の中で思っていたが、いざ課題がなくなるとどうして良いか分からなくなってしまうところがあるという事に気づかされた。
・実習先での落ち着いた雰囲気と大学での賑やかな雰囲気に大きな差がある。

■考察

２回目の連絡会を通して学生たちの成長を知ることができた。１回目では仕事の内容の理解や時間的、数量的なこと、人間関係やビジネスマナーに関する不安や悩み等が多く、その改善に向け、自分が仕事や周囲の環境とどう関わっていくかということに視点が置かれていた。

今回の報告会では、学生たちは仕事をする上で大切なこととしてコミュニケーション力や大勢の人と関わりを持つことの重要性を上げていた。更に職場の人や上司、他社の人間などあらゆる年代や業種の人とコミュニケーションを通して日々仕事をこなしていること。仕事は他人との信頼関係を築いて行われていること。責任感や粘り強やさが必要であること。仕事は報酬だけでなく人の役に立つことであり、そのためには丁寧で正確な仕事をしなければならないこと等に気づくとともに、自分と自分が置かれている職場や環境を客観的に見渡す等、2ヶ月の体験を通して主体的でより深い学びに変容している姿が見られた。

(3)第３回中間連絡会

・期日

12 月 23 日（金）10:00～15:00

・内容

長期インターンシップも残すところ 1 ヶ月となった時点で「インターンシップを通して身に付けるべき力や視点、態度」、「インターンシップで学んだこと」、「インターンシップ終了までに何をするのか」を自己評価し、グループワークを通して成果と課題を明らかにするとともに情報を共有することで、より深い学びや新たな気付きとして深化させていく。そのことにより、今後の学びや生き方に展望を持たせながら取り組みを焦点化させていく。研修での学びと取り組みについては以下のようである。

【インターンシップで学んだこと】

・働くということは一人でできるものではないと学んだ。皆が協力しなければ何も出来ない。
・仕事だけではなく、人間関係や協力、コミュニケーションすることで仕事の活力や向上にもつながっていくことを改めて学んだ。
・ごみが発生してから処理されるまでの流れを知り、その過程で多くの人々が関わり、費用や苦労がかけられていることやごみ分別の意識を持つことの大切さを学んだ。
・人と接する時の態度や表情、話を聞く姿勢が大切だと改めて学んだ。
・イベントの管理や運営がどのようになされているか、見積もりなどの計算や企業との取引なども体験することができた。事務作業いうとパソコンに向かってタイプするように思えたが、事務内容を学んだり資料作成したり、色々なところへ出向き。同意や了解を得ながら作成していることが分かった。
・学校以外の場での年上の人と話をするために、必要な知識（新聞を読むことが大切）を理解した。
・自分の強みと弱みが分かった。リーダーシップ等、人をまとめたり人と適切な距離感を持って行動したりすることが分かった。逆に細かい作業は苦手なことが分かった。
・時間を気にして行動できるようになった。何をいつまでに終わらせるのか、どのくらい時間を使うのか等、今何をすべきか、マネジメントできるようになった。
・コミュニケーションをとるために幅広い情報が必要で、活力や効率の向上に繋がる。
・研修先の方々など多くの人の協力があって私のインターンが成立していると分かり、感謝の気持ちを持って仕事に取り組むようになった。挨拶、報告、連絡、相談は人間関係をつくる上でも仕事をする上でも大切だと改めて学んだ。
・目標をつくり計画を立てて仕事に取り組むことが大切だと学んだ。
・メモを取ることの大切さを学んだ。
・繰り返し行う作業でも工夫をして単調にさせないことを学んだ。

【インターンシップ終了までに何をするのか】

・苦手なことを敢えてやる。作業が必要な職場も多いので苦手意識を克服する。
・仕事に取り組むだけでなく取り組み方を工夫し、仕事の時間や目標を決める。
・一般常識、態度、敬語（仕事用の言葉）、身短く分かり安く伝える力身につける。
・ビジネスマナー、インターンシップで学んだことを大学生活に活かす。
・お世話になった職員の方々に感謝の気持ちを表す。
・意見を聞かれることが多くなってきたので積極的に意見を出すようにする。

Ⅴ．事　後　研　修

1．事後研修会

(1)期日

2 月 6 日（月）～2 月 10 日（金）

(2)内容

○４ヶ月にわたるインターンシップの体験を通して学んだことの振り返りを行う。

・仕事を通しての気付き、身についた力や態度。

・今後、さらに身に付けなければならない力や態度。

・大学生活で何をやらなければならないのか、どう過ごすのか。

・職業観の直視、生き方等、自己変革に向けての取り組み、展望。

これらの観点でグループワークを行い、これまで取り組んで来た成果を確認する。事後研修会で話し合われたことやまとめは「Ⅵ．評価と成果」でアンケートの集計や「学生の声」として記載した。

○インターンシップでの学びをパワーポイントで作成し、自己の学びをまとめ、成果報告会を通して発表する機会を設ける。

【留意事項】

・様々な伝え方の中で最も伝わりやすい伝え方を考える。

・文章で長々と書くよりもなるべく短い言葉で伝える。

・スライドは視覚的な資料なので、グラフィカルに提示する。

・情報の根拠を明確にする。

・話し言葉と書き言葉を使い分ける。

・フォントを使い分ける。

・どの部分はスライドに書き、どの部分は口でしゃべるのかを明確にしておく。

・質問されそうなことはあらかじめ調べておく。

2．成果報告会

(1)期日

平成 29 年 2 月 14 日（火）

(2)内容

・開会、学長挨拶

・概要報告等

・研修員の報告（一人 7 分）

・評価と成果

・質疑

・研修先からの報告

・閉会、まとめ

【参加者】学長、副学長、就職支援センター、前橋市役所、市立図書館、サンデン環境みらい財団、司建設エアームーブ、NPO 教育支援協会北関東、日本赤十字社 前橋赤十字病院

Ⅵ. 評　価　と　成　果

1. 学びの自己評価

インターンシップを通して、自分に身についたと感じたスキルと今後もっと身につけるべきだと感じたスキルをインターンシップ開始から２ヶ月経った時点と終了した時点で自己評価を行った。具体的には２ヶ月経過後の自己評価は評価項目を参考に評価を行い、４ヶ月後の自己評価は評価項目にとらわれずに、自らの体験を通して気付いたこと、感じ取ったことを自己評価し、まとめを行った。

インターンシップ終了後の事後研修の中でグループワークを行い互いの成果を確認し合うと共に課題を共有し、今後の大学生活がより充実したものになるよう振り返られるようにした。これは自己評価の観点を豊かにするとともに今後の学生生活を主体的・能動的に学んでいこうとする力を育てていきたいと考えたからである。自己評価は以下のようである。

■身に付けるべき力や能力

①コミュニケーション力

・初めて会う人も多く、その中で自分の意見を言わなくてはならない場合もあり意見を求められた時に自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えること。
・挨拶をしたり、自然な笑顔で自分から話しかけたり、話題の提供や相手を意識して話を振ったりすることができること。
・小さなことでも何かあったら担当者に報告、連絡、相談すること。
・自分の考えを言葉に出して伝える事で、自分を知ってもらうことができるということ。
・話を聞くときは身体や顔を相手に向け、相槌などしながら聞くこと。
・相手や場に応じて話し方や言葉遣いを使い分けること。

②主体的な行動力

・不安なことや分からないことがあっても「分からない」で終わらせないで自ら進んで取り組み、納得のいくまで努力すること。
・手が空いている時は自分から手伝える事はないか尋ねること。
・自分の立ち位置を考えて、学ぶ姿勢で挑戦し行動すること。
・会議等で意見を求められた時、自分のアイデアや思った事はきちんと伝えること。

③マネジメント力

・時間配分や時間厳守など時間を気にして迅速に行動すること。
・提出期限のある仕事やたくさんの仕事を頼まれたとき、何を何時までに終わらせるのか計画や見通しを立てて効率よく仕事をすること。
・単純作業でもどうすればもっと早く終わらせることが出来るかを考えて取り組むこと。
・何のためにするのか、今後どのようにしたいのか決めて行動すること。目標を決めると逆算して今は何をすべきなのか分かる。
・いつまでに仕事を終わらせるかを決め計画を立ててその仕事に取り組む。
・仕事の合間に休憩をとるなど、体調管理をしっかりすること。

④ビジネスマナー

・電話対応等、相手に不快を感じさせないよう丁寧に対応すること。
・身だしなみをチェックし敬語の使い方等に気をつけること。

⑤問題解決力

・与えられた仕事を忘れずにメモをしておき、優先順位をつけ大切なことから早く処理すること。
・分からないことはまず自分で調べ、確かめてみること。それでも分からない場合は質問をまとめて質問をする人の手が空いたときを見て聞くこと。

⑥柔軟性

・その場の雰囲気を読み、臨機応変に対応していくこと。
・分からないことがあった時など、周りの様子を見て解決策等、要領をまとめて聞く。
・明るく元気に挨拶をするなど、たとえ気分が落ち落ち込んでいたとしてもそぶりを見せない。

⑦社会への関心

・社会の中で起こっていることや世界の事件や経済状況等に関心を持つとともに、意識・傾向を自分なりにまとめるなど、普段からニュースを聞いて情報を得ること。
・今まで経験してきたことや大学で学んでいることと職場の仕事との関連性を考え実践すること。
・資料や細かい作業の中から社会の状況を把握したり、言動や表情などからも何をすべきか感じ取ったりするなど周囲の様子を判断し適切に対応すること。

⑧傾聴力、読解力

・自分が分からないと感じたことはそのままにせず、周りの人に聞いてきちんと理解すること。
・窓口に来たお客様からの要望を丁寧に聞き取るとともに関係部署や担当者にきちんと伝え、連携すること。

⑨自己表現力

・配布資料等を封筒に入れるときでも、資料の向きをそろえたりきれいに折ったりするなど、丁寧な作業に心がけること。

⑩創造力、企画力

・人と違った観点を持つなど、新しい見方をすること。
・企画したイベントをいかに多くの人に見てもらえるか計画段階から考えておくこと。

■考察

インターンシップがスタートした２ヶ月後の自己評価と終了時（４ヶ月後）の自己評価では、学生自身の評価が厳しくなるとともに、評価の観点がより豊かになり、到達度目標を高く設定していく傾向が見られた。インターンシップを通して大学で学ぶことの意義や価値を見いだしたり、大学生活の在り方を見つめ直したりするとともに、勤労の意味や自己有用感を感じ取るなど、将来に向けてのライフステージを考えるきっかけにもなったと考える。

2. 教育的効果

■意識の変化

インターンシップを通して、試行錯誤しながらキャリア教育というプロセスを体験させることは卒業後の生きる力として重要なことである。学生たちの中には、何のために学んでいるのか明確なイメージ図を描かないまま大学生活を送っていることが多く、就活の時期になって改めて大学の学びと社会で働くこと、勤労観等について考える学生が多い。具体的な体験や試行錯誤がないまま内省だけをしても生きていく力としては極めて脆弱であり、社会に出たときのことを想定した対応をしていかなければならないと考える。

インターンシップを実施する前では「学ぶこと」「働くこと」「生きること」について、３つの要素がそれぞれ個別に乖離していたものが、実施後では、学生たちのイメージが相互につながっていく様子が自己評価等を通して分かるなど、学生の意識に変化が見られた。

要素１．学ぶこと　　“大学で学ぶことを見つめ直す”

インターンシップを通して就業に関すること以外でも自分の興味・関心のあることに対してインターネットや図書館等で調べたり学んだりすることが多くなった。研修先の仕事内容に関連する情報収集、検索に時間をかけるなど学ぶ時間も増加した。このことが大学での学習時間の増加にもよい影響を与えていると考える。

・大学での学び方、学ぶ態度

大学で学んでいる専門分野についてさらに深く学ぼうとする姿勢や学び方（アクティブラーニング等）に気づくことができた。学びに向かっての集中力や忍耐力、積極性、主体性や日々努力することの重要性を学ぶことができた。

・大学での学びと社会での学びの接続

大学の講義や実習で学んでいることが社会でどう活かされ、関連しているのかを考えるきっかけとなるとともに大学での学びが社会で出たときに役にたっていることに気づくことができた。今後、大学と社会との繋がりを考え、意識して学んでいくことでより充実した大学生活を送ることが出来ると考える。

・コミュニケーションの重要性

ものごとを推進するには協働が大切であり、相互の考えを伝え合い、信頼関係を深めることが重要であることに気づくことができた。さらに自分の考えをしっかりと相手に分かりやすく伝えていくことでより一層信頼関係が深まることが重要であることを感じ取ることが出来た。

要素２．働くこと　　“責任と自覚、自己変容”

○日々の記録や日記をつけ、自己を振り返るようになった。
　・メモをとったり、記録・日記をつけたりするようになった。
　・名前や用件をしっかり聞き取る癖がついた。
○規則正しい生活を送るようになった。
　・無駄の排除（SNS など）、効率化を図る。
　・体調管理に気をつけるようになった。

○対人関係に気をつけるようになった。
・以前は課題等を自分で抱えこんでいたが、困ったときに人に相談するようになった。
・感謝の気持ちが増えた。
・学内でも挨拶をするようになった。
・年上の人と関わることに抵抗がなくなった。
○時間を気にするようになった。
・レポートなどの課題を家でしていたが、学内でするようになり、大学にいる時間が増えた。
・学生の時間は有限だということを体感した。
・時間の使い方に気をつけるようになった。いつまでにやる、今日は何をやる、明日を考えて早く寝るなど時間の意識をもつ。
○政治や経済、教育など、社会事象、進路に関心を持つようになった。
・人や社会、経済・社会の出来事に興味を持つようになった。
・自分の進路について色々考えるようになった。
○興味、関心に応じた情報収集や検索時間が増えるようになった。
・電車内の時間を活用し読書をするようになった。
・今までより新聞を読むことを心がけている。
・勉強をするようになった。

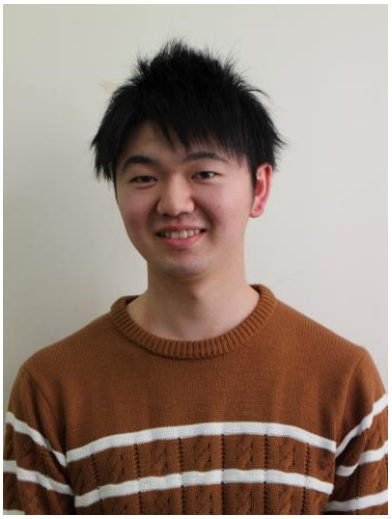
要素３．生きること　　“職業観、地域志向の高まり”

日常生活の中でメモや記録等、備忘録を取ることで自分だけのことでなく、常に相手に迷惑をかけないようにしようとする態度や意識の重要さに気付くことができた。時間を守ることはいうまでもないが時間の大切さや時間を有効に活用しようとする態度に意識の変化があった。

このように将来の就職活動に備えて、行政・企業等で実際に仕事をしながら、社会に出るためのビジネスマナー、スキル、マインドを学ぶことができた。さらに研修先から提示される課題に取り組むことで、地元企業や行政等が社会貢献や地域に根付いた活動を積極的に行っていることに関心や魅力・やりがいを感じ、生まれ育った地域社会に貢献したいという地域志向の気持ちも高まってきた。さらに大学生活や自分の将来を見つめ直すとともに社会事象や周囲の人々にも関心を持つようになる等、よりよく生きていこうとする意識に変化が見られるようになった。

3. 学生の声（研修生8名）

■寺倉　竜乃介　（情報・経営コース3年）　ごみ減量課



●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

長期インターンシップの参加動機は、大学生活の中で何か自信を持って言えるような経験をしたかったからである。大学生は何をしても、どう楽しむかも自由であるが、すべて自分自身に責任が伴うものである。研修では、ただ苦労もしないでなんとなく過ごすというような無駄なモノにはしたくなかった。少しのことでもいいので何か抱負を持って行動するようにしていけたらと思った。例えば、何をするにも常に責任と自覚を持って取り組むこと、家族や友人とは別の社会交流というものがどんなものなのかを実際に学んでいくこと、今の私が社会で仕事をするうえでどこまで通用するのかを理解することなど、やれること、学ぶことがたくさんあると思った。自分のことをただ真っ直ぐ真剣に、というのももちろんであるが、その中で周りを見て、ほんの気遣いでもよいので意識できるような人になりたいと思った。研修における苦労や努力はどんなかたちであれ、必ず自分の力になると信じている。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

私は４ヶ月間、市役所環境部のごみ減量課という部署で業務をやらせていただき、様々な気づきや経験をすることができた。初めは、市役所というと、冷たく堅そうなイメージがあったが、研修先はそれぞれ職員一人一人が異なる業務をこなしつつその中でもコミュニケーションをとりながら協力し合っている様子が見られたので、ぎちぎちと堅い雰囲気ではなく、むしろ明るい感じであった。業務は、窓口に来られた前橋住民の方に住まいの地区に応じたごみの収集カレンダーを配布したり、引っ越しで前橋に来られた方やスーパーですれ違った方に、ごみの分別で困っていることがないかを聞き、その質問に説明をしながら答えるといった業務、また、市内の小中学校あてに環境活動にかかるアンケートを作成したり、ポスターを作成したりと、どの仕事も一つ一つ重みと責任を感じるような業務をさせていただいた。業務は他にも事務の仕事だけでなく、３Ｒバスツアーや上記で述べた店頭での相談会というような役所外での業務もさせていただき、ごみ減量課から前橋市民に対してごみの分別をより良くするための熱い思いを感じ、市役所が前橋市を支えているという真の意味を、実際に目で見ながら理解ができた。研修先で一番大切だと思った気付きは、「人と関わること」にあると思った。ただ仕事をするだけで、いくら仕事ができたとしても、人との交流がなければ、協力や助け・支えとなるものが無くなり、仕事自体も成り立たなくなっていくことだと思う。職員同士の仕事の話でも、住民の方との町の事情を聞くのも、他の企業からの新年の挨拶でも、どんな職場でも人と関わること、言い換えればコミュニケーションは、切っても切れない関係にあると思う。だからこそ私は、その大切な気づきとともに研修が終わったとしても今後の生活を大切にしていきたいと思った。

■阿久津　祥　（英語コース3年）にぎわい商業課まちなか再生室・選挙管理委員会事務局

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

今回の長期インターンシップに参加した理由は、「長期インターンシップなんてあまり取る人がいないのではないか？就職活動をするときにアピールポイントになるかもしれないし、何より長い期間で企業や行政のことを知ることができるチャンスだ！」と考えたからである。4か月前の私は丁度今後の進路について考え始めているところであり、企業や行政に対しての不安や疑問などがたくさんあった。また、就職するときに職場環境が一番大切であると思っていたので、実際に参加してみて自分の目で確かめてから志望したほうが職業選択を間違えずに済むと思ったのも事実である。

市役所のにぎわい商業課を選んだ理由は、「私は体を動かし活動することが好きで、行政は比較的デスクワークのイメージがあったが、にぎわい商業課の部署はイベントの管理運営をやっているみたいですよ」と紹介されたのがきっかけである。選挙管理委員会事務局は、「自分自身がもっと選挙のことに関心を持つべきであり、事務局に行き、現場での仕事を見ることで、その関心を深めよう」と思ったからである。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

私が「まちなか再生室」でお世話になった期間は、Maebashi 45DAYS というイベントが開催されており、活動は主に 45DAYS での記録写真を撮り、その写真を前橋市役所公式の Facebook にアップする事である。Facebook の投稿をする仕事では、市民の皆さんも見ることになる文章なので、簡単な文章を投稿するときでさえ、いつも以上に言葉遣いに気をつけることを心がけた。言葉がひとつ違うだけで受ける印象が大きく変わってきてしまうことを改めて思い知らされた。

「選挙管理委員会事務局」では、前橋市議会選挙が近かったので、勤務日の殆どが配布資料の仕分けや投票用紙の枚数を数える作業で終わった。作業自体は大変ではないが、淡々としているので眠くなってしまったときもあった。投票と聞くと、投票場に行き 10 分もあれば終わってしまうものだが、スムーズに投票が進むために裏では多くの時間を使い準備をしていることを知ることで、これからは投票の機会を大切にしようという気持ちになった。今回のインターンでの一番の気づきは、せっかく長期インターンシップに参加しても何もせずにボーっとしていれば、何も得られずに終わってしまうことを自分の身をもって知ることができたことである。自分から「次に何したらよいですか？」、「次は～をしたほうがいいだろう」と思って聞いたり行動に移したりしないと、周りの職員は何も与えてくれない。最初は「インターンに来ているのだから、何か仕事をくれるだろう」と甘い気持ちでいたので、時間を無駄に過ごしてしまったことが何度かあったが、自分から進んで動くことを念頭に置き仕事に取り組むようにした。最初は聞くのが恥ずかしく、何度も聞いて迷惑ではないかと心配な部分もあったが、自分から動こうとすることで回りもサポートしてくれ、今まで以上によい関係を築けるようになったと思う。

■三ツ木　史織　（情報・経営コース3年）　市立図書館

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

図書館をインターンシップ先に選んだ理由は、こども図書館で行われている業務に興味を持ったからである。私は小さい頃から本を読むことが好きだった。その中でも絵本などの児童書を読むことが好きだった。こども図書館では絵本が多く所蔵されていると聞いてとても興味を持った。調べることで、幼いこどもでも安心して本を読むことができる環境がある場所だと分かった。こどもが利用者の中心という図書館は知らなかったので、どのような業務をしているのか、どのように人と接しているのかを知りたいと思った。また、図書館では本の貸し出し、返却、本の整備を行っていることしか知らなかった。インターンシップに参加することで図書館の表面的な部分だけではなく、利用する時には見ることが出来ない裏方の仕事を知り、図書館についての理解を深めたいと思った。そして、図書館の業務を通して自分と人との関わり方を見直したり、絵本の良さを広めたりしたいと考えた。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

図書館での業務はカウンターでの作業よりも、事務室で作業をすることが多かった。大体の業務が地道な単純作業の繰り返しだった。地道な作業は得意なので嫌になるということはなかったが、繰り返す中でいかに速く作業をするか、どうしたら効率よく正確にできるかを考え、試行錯誤をするようにした。繰り返し行う作業以外のもので大きく印象に残っているものが 2 つあった。1 つ目は 11 月に行われた蔵書整理である。蔵書整理は図書館の本を大きく移動させて新しい本を入れやすくしたり、貸出していない本が所定の位置にあるかどうか確認したりする作業である。中央図書館では 1 階の本を 2 階の本棚に移動させる作業を行った。並び順をよく覚えていない時に行われたので、並べる作業はそんなに出来なかった。しかし、本を運ぶなどその他の部分で積極的に行動をし、何か出来ることはないかと訊くことで、あまり係わりの無かった職員の方とも話すきっかけが出来きた。蔵書整理を通して、本のラベルの見方が分かり、どうしてそこにその本があるのか等が分かった。事前に調べて学ぶことも重要であるが、働きながら学ぶことも多く、それをさらに仕事に生かせるように行動するべきだと学んだ。2 つ目は 11 月 5 日に行われたイベントである。講演会で、図書館とは別の場所で行われた。事前に配られた資料を読み込んで流れを把握し、来場者の方に丁寧な対応をすることを心がけた。私はそのイベントで受付をしていたが、違う人を受付してしまうことがあった。丁寧なだけでなく、どんなことにも落ち着いて速く正確に対応することが必要だと学んだ。これは普段行っている繰り返しの作業にも、社会に出てからも必要なことだと思った。

図書館の業務に携わる中、失敗した時にフォローをして貰ったり、よく気を遣っていただいたりした。多くの方に支えて貰って実習が受けられていると感じた。

■渡邉　彩芽　（国際コース2年）　　市立図書館

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

社会人の方々と同じ空間で働くことによって、身の振り方やマナー、心がけ等、身を持って経験、体感したいと考えた。話で聞く、文章で読むことはできるが、自分が実際に行って見て、その一環に携われることに意味があると思った。社会に出る前段階として、少しでも自分にとって役に立つことがあるはずだとも感じた。また、自分の弱点を再発見し、社会に出るまでに改善することに繋げられるとも考えた。

アルバイトでも社会人の方と接する機会はあるが、全く違った業種で、身近とはなかなか言えないような場所ではどのような感じなのだろうという興味がわいた。私の中では社会に出て働くということはとても大変だ、というネガティブなイメージがどうしてもあったので、どのくらい大変か、またポジティブなイメージに少しでも出来れば自分の就職活動にプラスのイメージを与えるかもしれないと考えるようになった。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

今回参加することによって、様々なことを体験することができたと思う。最も感じたのが、働く人同士、誰もが気持ちよく働けるように努めているということだ。人から何か受け取ったときなど、直接受け取っていなくても、後にきちんとお礼を言う、一声かけるなど、当たり前だが、人と接するうえではとても重要な一連の動作を学べたと思う。アルバイトでは、利益を優先するためそのような暇がなく素早い仕事捌きを優先させるため、何かしてもらってお礼などはもちろんするがそこまで重要視されていない。よって職場の雰囲気にもよると思うが他人への思いやりというのはやはり大切だと経験することができた。また、わからないことはささいなことでも聞く、メモを残しておくということの重要性がよく理解できた。パソコンを使って入力作業などしていて、入力の仕方も細かく決まっている。そのようなときに曖昧なまま自分の判断に任せてやってしまうと、後々の作業に響く。また担当の方が確認するときに手間であるということも考えられる。これはどのような仕事でも言えると思うが、仕事をするという上ではとても重要なことであると再確認することができた。他に単純な作業だと慣れてただこなすようになりがちになってしまうことがあった。そうして気を抜いてそのまま作業を続けると、失敗してしまい更に手間がかかってしまうようになってしまう。よって簡単な業務でも、気を抜かず、慎重ではあるが丁寧に確実に仕事をこなすということの難しさと重要性をこのインターンを通して学ぶことができた。また、ずっと同じ作業をするにしても、どのようにすれば効率良く速く終わらせることができるかということも、前より考えることが習慣的になることができたと思う。自分の中でノルマを課すことによって、ダラダラと取り組むことなくできると感じた。インターンシップの研修生なので 1 日中同じ業務の日もあったのだが、そうした中では忍耐力も十分必要だと業務を通して理解することができた。

■小林　もえ（英語コース3年）　サンデン環境みらい財団

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

長期インターンシップをやってみようと思ったきっかけは、以下の３点である。

・１、２年次は「長期留学をする」ことを軸に大学生活を送っていたが、それを終え、次は何に挑戦しようか考えていた時にインターンの話を聞いて興味を持った。

・３年生ということで就活やインターンシップのことを考え始めていた。

・短期インターンシップでは知り得ないことが、長期インターンシップでは分かるのではないかと思った。

サンデン環境みらい財団に決めたきっかけは以下の３点である。

・世界各国に支社があり Global に事業展開していて、異文化間での仕事もあると知り興味を持った（私の留学経験が活かせる仕事があるかもしれないと思った）。

・私の地元である、群馬県伊勢崎市に本社があり、地元の活性化や貢献に何かつながることがあるのか気になった。

・財団では、一から事業を作りあげていることを聞き、大学生の私の視点や発想が生かせるかもしれないと思った。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

一番の気づきはマネジメントする力だ。インターンシップ、大学、アルバイトとプライベートをすべて充実させたかった私は、スケジュール調整に力をいれてきた。大事なことは、「何をいつまでにやるのか決めること」と、「on と off の調整」だ。これを意識するようにしてから、無理せずモチベーションを高く持ち続けることに成功した。例えば、月末に大学でプレゼンがあるとし、逆算して準備期間を決める。そのために、アルバイトの休み申請が必要か否か考え、必要な場合は早めに申請する。簡単なことかもしれないが、以前の私はスケジュールを詰め過ぎて、十分な睡眠時間を確保できず、体調不良で周囲に迷惑をかけることがあった。プラスすることばかりで、時にマイナスするという概念がなかった私にとっては大きな気づきである。また、「関係性」についても学んだ。私は、高校は商業高校で資格やその分野の知識をつけたが、大学は本校で英語を学び留学した。多面的に活動してきた一方、一貫性がなく結局自分は何がしたいのか分からずにいた。しかし、インターンシップをすることで、私のノウハウが生かされることがあらゆる場面であった。例えば、高校で取得した情報処理や一般事務の知識が事務業務で生かされた。他にも、海外生活で学んだ異文化間コミュニケーションの意識が、事業の一環のアフリカ人留学生と関わる時に役立った。このように、自分のバックグラウンドが思いもよらないところで、自分や人のためになることがある。その関係性の大切さに気付くことができ、それは大学やアルバイトでも代用できた。人の話に真剣に耳を傾けられるようになったり、情勢や世界の動向に興味を持つようになったりした。それによって自分の視野が広がり、より深い知識を得られるようになった。

■日野　しずく（国際コース2年）　　エアームーブ住宅（司建設株式会社）

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

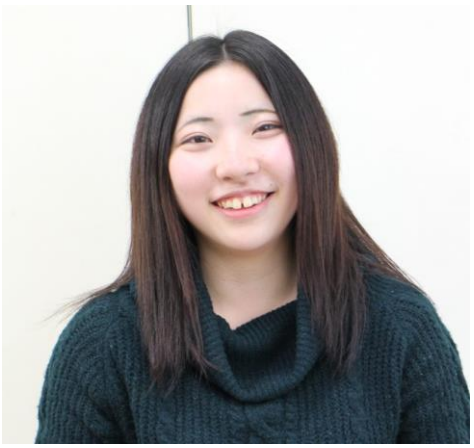
今まで、「果たして自分は社会人になることができるのだろうか」と、ずっと不安に思っていた。私は今まで人と関わることが苦手で、当たり前のことができない人間なので、きっと社会に出ることはできないだろうと考えていた。学生生活はたったの 4 年間で、その短い間で自分は何ができるのだろうと考えていた。そんな中で、長期インターンシップというものを知った。実際の企業や、社会はどんなものなのかを体験できる良い機会である。実際の社会がどんなものかがよく分からないから、もしかしたら自分は不安なのかもしれない、知ることで自分の道が拓けるのではないかと考えた。また、学生は社会人と比べて、たくさん失敗ができる。だから、今のうちに、たくさん失敗をしてたくさん経験をして今から約 2 年後、社会に出たときに、1 人の社会人として恥ずかしくないような大人になりたいと思い、この長期インターンシップに参加を希望した。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

この長期インターンシップで、私は本当にたくさんのことを学ぶことができた。あいさつの大切さや敬語の使い方などの基本的なマナーや、お茶出し、電話応対などの基本的な社会常識などはもちろんのこと、企業とはどんなものなのか、働くとは、お金の回り方までも本当に数多くのことをこのたった 4 か月間の間に学んできた。また、社会はたくさんの人によって成り立っていて、決して 1 人で生きていけないということを知った。決して 1 人で仕事をすることはできなくて、その仕事は必ず誰かの為になるのである。私は、建設会社にお邪魔させていただいていたので、1 棟の家を何十人、何百人の人が全力で造り上げていくのを直接見てきた。お客様の目には見えない要望を引き出して、そこから 2 次元の図面が完成して、そしてお客様の要望通りのものが立体になって目に見えるものとなる過程は、本当に感動的なものあった。これは一生懸命、一致団結して働いている社員の方々を直接見てきた私だからこそ分かることなのではないかと思った。家が完成した後も、図面や予算などの資料をまとめたものを製本したり、アフターフォローをしていったりと目に見えにくいけれども、お客様の為に行っている陰ながらの努力も知ることができた。この陰ながらの努力はお客様だけでなく、社員同士でも行われており、自分もその一員になれていることを嬉しく誇りに感じた。また、なにもできないような学生の私の為に、仕事の仕方を 1 から教えてくださったり、私に親切にしてくださったりなど、様々なことを忙しい仕事の合間を縫ってたくさんの社員の方がしてくださった。そして、毎朝早く、忙しい毎日を家族はずっと支えてくれた。これらの経験によって私は、たとえそれが相手に気付かれないような些細なことでも、その相手の為を思って何かをすることの大切さと周囲の人の支えによって今の自分があることを知った。

■剣持　佳帆（情報・経営コース2年）　NPO 教育支援協会北関東

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ



私が長期インターンシップに参加したきっかけは、受講していた講義で長期インターンシップの説明を受けたことである。大学生にはたくさんの自由がある。自分ですべてを決められる環境だからこそ、自分から積極的に取り組んでいかなければ、4 年間の大学生活を無駄に過ごすことになってしまう。私は大学に入学して自由な生活を送っていく中で、楽しいと感じる反面、将来への不安を感じるようになった。将来の夢もやりたいと思うこともなく、ただこのままだらだらと大学生活を続けていては自分にとってマイナスにしかならない、もっと成長したいと思った。そんな時に長期インターンシップの存在を知った。ビジネスマナーや座学では学べない一般常識など、将来就職した際に必要なことを身に着けるには、実際に企業様で働かせていただくことが一番だと思い、長期インターンシップに参加した。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

この 4 か月間、電話対応やチラシの仕分け、企画立案から準備・運営まで、普通に大学生活を送っていたら経験できないたくさんのことを経験させていただいた。電話対応では顔が見えない分、言葉遣いや抑揚のつけ方で誠意を伝えなくてはならなくて、本当に相手のことを思って対応する必要があると実感した。また、イベントの企画や準備から当日までの運営に携わらせていただき、「人とのつながり」を感じた。イベントを運営するスタッフ、場所を提供してくださる施設の方、ボランティアとしてイベントを支えてくださる学生、そして参加者の皆さん、たくさんの人が関わり協力してくださって初めて 1 つのイベントが完成するのだと思った。私は準備から当日の運営まで、裏方という立場でイベント全体を見させていただき、裏方は決して目立つ仕事ではないけれど、円滑に進行ができるように、より良い環境を作るために、陰でイベントを支えている大切な存在だと感じた。そして、臨機応変に対応することが求められる環境下で、考えることの大切さに気付いた。一歩二歩先を考えて行動することで、次に何をすればよいのかが見えてきて、積極的に動けるようになった。わからないことがあってもすぐに聞くのではなく、一度自分で考えてみることで、仕事の効率化にもつながった。この 4 ヶ月間たくさんの経験をさせていただいたが、その中で一番大切だと思ったことは、「準備をしっかりする」ことである。たくさんの経験をつんできた人にすぐに追いつくことはできない。しかし、準備をしっかりしておくことで、近づくことができる。準備をしっかりし、一つ一つの仕事を確実にこなしていくことで、信頼が生まれ、今後の仕事にもつながる。自分自身がステップアップするためにも準備をしっかりとすることが大切だということを長期インターンシップで学んだ。

■上岡　力也（心理・人間文化コース2年）　　日本赤十字社 前橋赤十字病院

●長期インターンシップに参加した動機、きっかけ

私が大学進学を選択した理由の一つに、社会に出て働いていく自信がなかったというものがある。実際に社会人の方々と働くことで、社会人として必要な力や「働くということ」についてより深く理解して、社会に出て働いていく自信をつけたいと思ったため、長期インターンシップに参加した。また、多職種の方々や研修生といった様々な立場の人がいる病院という環境の中でインターンシップをすることで、私に足りない主体性や積極性などを身に付けたいと思ったこと。大学での学び（パソコンの操作や物事を多角的な視点で見る力など）が社会の中でどのように役に立つのかを知りたかったこと。インターンシップを通して、自分のできること、できないことを知り、できないことはインターンシップや大学生活の中でできるようにしていき、社会人になるための準備をしたいと考えたこと。これが長期インターンシップに参加した動機である。

●インターンシップに参加して得られた気づき、経験したこと

約４ヶ月間、研修管理課を中心に、診療情報管理課、医事課、総務課、社会課、検診センターなど様々な部署で多くの業務をやらせていただいた。研修会の資料の準備、書類の作成、アンケート集計、ファイル整理などの事務仕事をやりながら、受付での患者対応、医療系専門学生の病院見学や研修オリエンテーションの手伝い、研修会場の準備と受付、新病院の建設地での支部有効会や経営審議会に連れて行っていただくなど、様々な方々と関わることができ、たくさんの経験をすることができた。私がこの長期インターンシップでたくさんの経験ができたのは、研修管理課の皆さんをはじめ、前橋赤十字病院の職員の方々の協力があったからだ。当たり前のことかもしれないが、仕事は一人ではできないということをインターンシップの中で実感した。仕事を円滑に進めていくためには協力や連携が必要で、協力を得たり連携を取ったりするにはコミュニケーション能力が重要だと感じた。挨拶やマナーを守ることは社会人としてできて当たり前のことで、笑顔、感謝、誠実な対応が良い人間関係を作り、保っていくために大切だとわかった。また、どんな小さなことでも報告、連絡、相談をすることで、相手との信頼関係を築くことができ、信頼関係を築ければ、お互いに意見を伝えやすくなり協力を得やすくなることを実感した。職員の方々は笑顔で温かい対応をしてくださったので、質問や相談がしやすかった。私も職員の方々のように対応できるようにしていきたい。その他に得られた気づきは、大学での学びが社会中で活かせるということだ。書類作成やアンケート集計など、大学で学んでいたパソコン操作や物事を多角的視点から見る力など、インターンシップで活かすことができた。大学での学びが役に立つことを実感してから、勉強が楽しくなってきた。自信を持って社会に出られるように、残りの大学生活では様々なことに挑戦してコミュニケーション能力を高めつつ、知識、技能を深めていきたい。

■インターンシップで学んだことをもとに、今後の大学生活で活かしたいこと、取り組んでみたいこと

寺倉　竜乃介

ただの思い出だけで終わる研修ではなく、自分自身の何かを変えてやろうという気持ちで仕事・交流を含め様々な挑戦をしつつ一日一日を大切に過ごすよう心がけた。自身で変わったと自覚できたのは、人と話をする時に人の目をきちんと見られるようになり、相手の表情を見ながら話すことに私の中で何か喜びや嬉しさを感じ、以前よりも会話というのが楽しく感じられるようになった。当たり前のようだが、これは私にとって大きなプラスだと感じている。前橋市役所の方々と一緒に前橋市の為、前橋市民の為に働いたと自信を持って言えるような経験ができた。今回のインターンシップで精いっぱい取り組んだ証でもある。今後も人と接するその一瞬一瞬を大切にしていこうと思った。

阿久津　祥

今回のインターンシップでは「自分の気持ちを相手に伝えること」の大切さを学んだ。自分一人で考えていても解決しないことが周りの人に相談することで、自分では考えもしなかった答えや意見が出てきて、物事がスムーズに進むことがインターンシップでわかった。今までは、友達にもあまり自分の考えを言わなかったので「お前は何を考えているのだか良くわからない」と言われることも多々あった。私があまり意見を言わないことが原因で、グループ発表の場や計画を立てる場で意見が出なく行き詰ってしまった事もあり、もっと自分の考えを述べるべきだと反省する点も多かった。「自分の気持ちを正直に相手に伝える」ことは、まだ少しハードルがあるが、注意していきたいと思う。

三ツ木　史織

実習先では細々とした作業や準備が多くあり、普段目にしない部分で図書館に来館してもらう為の様々な工夫が行われていることを知った。実際に働いてみることは仕事へ対しての理解を深めるいい経験になった。約 8 時間働くととても疲れたので、どの仕事に就いても十分な休養や睡眠を取り、疲れを持ち越さないことが大切だと学んだ。これからの学校生活では、就職活動の合間にも多くの経験や情報収集が出来るように、他の人との会話やイベントに参加していきたい。また、大学で学んでいることが生かせる場面もあった。このことから、大学の授業を真面目に受講する、資格を取得するなど勉強から離れないようにしたいと思った。

渡邉　彩芽

学生の時間は有限だということがよく理解できたので、大学で自分が専攻した科目、ゼミへの取り組みをより良いものにし、後悔がないようにしたい。他に習得したい言語、資格などあっても無理だと思い諦めていたが、これからは取り組んでみようという気になった。また、長期インターンシップが始まってからは本当に忙しく、自分がとっている授業の課題、バイト、試験の勉強と寝る時間を削って取り組んでいたのでこれはいつまでに終わらせる、これは優先すべき項目など、計画性を持って取り組むことが改めて分かった。これらのことをこれからの生活に活かしていきたい。

小林　もえ

まずは、一番直結して就職活動に活かしたい。みらい財団で培ったコミュニケーション能力や、インターンシップで身に付いた学びや意識を活かした就職先をみつけることが今後の大きな目標である。もし、サンデンに就職希望し、入社できたとしたら、本学の学生とサンデンの懸け橋となって、何か本学のためになる活動ができないか考えたい。また、今まで興味のなかった分野の講義を受講する予定だ。例えば、社会学や歴史、国際経営などだ。就職後、勉強したくても、独学で本を読むのは時間もかかるし、億劫になる。私は、それを学生のうちに気付けて、また残りの大学 1 年を、学びや挑戦の場として有効に使うことができて、とてもラッキーだと思った。

日野　しずく

私はこれから、学生のうちにしかできないことをたくさんして後悔のない学生生活にしたいと強く感じた。残り 2 年しかないが、この短い学生生活の間に、インターンで学んだことや失敗を乗り越えていけるような経験ができるようにしたい。また、インターンでの経験を活かして、自分が将来、社会に出たときに必ず役立つことをたくさん身につけておきたいと感じた。たとえば、一般的な社会人マナーや綺麗に文字を書くことが出来るようになりたい。そして、このインターンでたくさんの人と関わることの大切さやすばらしさを学んだので、これからの学生生活では年上、年下に関わらず、たくさんの人と積極的に関わっていきたいと思っている。

剣持　佳帆

この長期インターンシップという大きな経験に満足せず、向上心をもって様々なことに取り組んでいきたいと思う。長期インターンシップの反省点の一つに、考えるだけで精一杯になってしまい、なかなか行動に移せなかった点がある。反省を活かして初めて自分の成長につながると思うので、反省を反省で終わらせず、今後の大学生活では自分に余裕を持って積極的に行動していきたい。いろいろな場所に行って、様々な人とかかわり、たくさんの経験をつんで、自分の視野を広げることで将来につなげたい。この経験を糧にし、自分に足りないものを身につけられるように、今後の大学生活も精一杯取り組んで行きたいと思う。

上岡　力也

長期インターンシップを通して積極性が身に付いてきたので、積極的に様々な活動に参加していきたい。具体的な内容としては、ラピタデスクのチューター候補生になったので、来年度はラピタデスクの活動に参加したい。また、大学で学んでいることは社会の中で活かせることがわかった。その中でパソコン操作に関する知識がもっと必要だと感じたので、残りの大学生活で身に付けていきたい。インターンシップに参加して、大学生と社会人では自由に使える時間や責任などに大きな違いがあると実感した。インターンシップでは失敗から多くのことを学んだので、自由な時間を有効に使って失敗を恐れずに様々なことに挑戦していきたい。

4. 研修先の担当者からのコメント

■長期インターンシップお疲れ様でした。この間、身体を使う仕事や頭を使う仕事にと色々と経験してもらいました。市役所といっても、事務の仕事だけでないことを実感したと思います。寺倉君には主にイベントに係る業務や、ごみ減量啓発の資料作成をお願いしていましたが、彼が取り組んだものが成果物となって出来上がったことは自信になったことでしょう。

短期のインターンシップは時間が限られており、一方的に説明を聞いたり、機械的に作業するだけになりがちです。しかし今回、長期にわたり職員と関わり合うことで、仕事以外の話をする時間もあり、社会人として働く人を身近に感じられたのではないでしょうか。

今回の研修を「貴重な経験だった」に留めず、今後の長い人生に活かしてもらえればと思います。

■前橋を様々な形で盛り上げたいと考える45の企画者が45日間、45個のイベントを実施した「Maebashi45DAYS」のお手伝いを中心に体を張って奮闘いただきました。

イベント期間中は事務より「作業」が多く、準備やその後の片付け、またイベント中においては市内各所で行われるため、自ら足を運んで記録写真の撮影・収集を行っていただきました。

「Maebashi45DAYS」終了後は、イベント来客者数のデータ解析や次期「中心市街地活性化基本計画」の基礎資料積み上げなど、職員同様の貴重な戦力として活躍いただきました。

デスクワーク一辺倒の市役所職員といったイメージとは違う側面を見ていただく格好の機会ではなかったかと思います。

■当局におけるインターンのメリットは、本来であれば投票するだけで終わってしまう選挙の側面を、実際の執行側の立場から経験できることにあります。行政サービスはその多くが法定行為であり、民間企業では実現し得ないものも多いため、学生の立場からしても貴重な経験になったのではないでしょうか。また、受け入れ側からしても選挙前の多忙な時期に実質的な「1名増員」の恩恵を受けることになり、職員の負担軽減につながりました。

阿久津さんについては、約1ヶ月という短い間の受入れであり、なおかつ市議会議員選挙の執行に向けた準備で事務局全体が多忙な中にも関わらず、職務への優れた順応性を見せ、雑務にも不平不満を一言も言わずにこなしている姿が印象的でした。

■図書館では、本の貸出しやレファレンスの窓口、資料情報の入力、イベントのスタッフ、その他、様々な仕事をお願いしました。一般には知られない、図書館業務の裏方の仕事を経験できたことと思います。研修生はその都度、説明者の指示に基づき積極的に取り組んでいました。この経験が、今後の研修生たちにとって一つでも有益なものになることを願っています。

なお、研修全般にあたって、勤務予定日等の設定と、複数の研修生の勤務管理については難しさを感じました。

以上、今後は利用者として図書館を訪れていただければ幸いです。お疲れさまでした。

また、ありがとうございました。

■自分の成長には、人との関わりは欠かせません。人間関係を築くにはそのための能力が必要で、人との関わりを繰り返す中で相手を理解する能力が養われ、自信に繋がります。インターンシップ研修では、多くの社員と関わり、学び、一歩前に踏み出す能力を付けていただきました。これから様々な分野でリーダーシップをとり、活躍できると期待しています。

■日野さんの臆することもなく何事にも積極的にチャレンジする姿勢は社員としても仲間としても頼もしい限りでした。
初めて体験するものに対しても素直に感動する日野さんの様子は社会人として長く時間を過ごしているこちらが初心を思い出し新鮮な気持ちとなりました。
一般事務の基本的なことは短期間にマスターでき、来客への自己紹介がてら名刺交換も寧にこなしていました。打ち合わせに同席した際には自分の意見、そして学生という立場ならではの意見もはっきりと伝えることができました。本人曰く自分に自信が持てないとのことでしたが、まったくそのようなことはなく前向きに一生懸命取り組む姿は、社外の方々からも高い評価を得られていました。

2 年目となる長期インターンシップへの参加は「人を育てる」ことが企業にとって最大の財産になることと、改めて感じています。
ありがとうございます。

■当協会では、情報経営コース 2 年剣持佳帆さんをインターン生としてお受入れし、4ヶ月間共に過ごしました。期間中は事務業務や電話対応、来客対応など体験していただき、また当協会イベントのサポートと並行して、「課題プロジェクト」に取り組みました。これは、当協会で開催できるイベントの企画、事務局内でのプレゼンテーション、質疑応答、資料作成などを含んで考察いただきました。期限等の都合により、残念ながら実際の開催・運営は叶いませんでしたが、「NPO だからできること」を念頭に、地域の問題と向き合いながら客観的に物事を捉えて立案、提案することができました。また、当協会が主催する宿泊型自然体験活動において、申し込み受付から準備、当日の裏方の仕事をこなし、先を見据えながら「今」を考える力に磨きがかかったようでした。当事務局は小規模ですので、メンターだけでなくスタッフ全員と関わりながら仕事を行い、様々な視点からのアドバイスを柔軟に受け止め、日々成長していく姿はとても頼もしく見えました。剣持さんより伺いましたが、インターンシップのプログラムの前後や期間

中にも、大学内で研修があったとのこと、詳細な研修内容やスケジュール等を共有して頂けると、受け入れ先において効率よく指導ができ、更なるステップアップを図る内容を提供できるのではないかと思いました。当協会ではボランティア等で大学生と関わる機会が多いですが、インターンシップを通して、改めて大学生の大きな可能性を実感するとともに、さらに将来への期待が高まりました。こちらこそ、大変お世話になりました。ありがとうございました。

■最初は緊張していたようでしたが、だんだんと笑顔も見られるようになりました。疑問に思ったこと、問題点など素直に感じ取り、質問や提案をして、自ら進んで取り組もう、学ぼうとする積極性がとても感じられました。

プログラムについては、まだ大学 2 年生でどんな仕事につきたいか、何をしたいか決めていないということでしたので、いろいろな部署を経験できるようにしました。病院という少し特殊な環境ですが良く対応していたと思います。また、上岡さんの素直な言動が、各部署の職員から可愛がられる要因であり、自身の心の幅だけでなく、社会が広がったことと思います。

職員にとっても自分の仕事を教えることで気づきから振り返りができたようです。そして将来のある若者を育てようとする気持ちが生まれました。これは、当院の職員にとってもとてもよい経験となりました。

4 か月間、本当にお疲れさまでした。上岡さんの今後の成長を期待いたします。

Ⅶ. ま　と　め

インターンシップを通して学生が日々成長し、変容していく姿を見ることができ、大変嬉しく思うとともに実習の教育的効果が学生を大きくさせていることを実感しました。研修も２年目を迎え、前年度の成果と課題を踏まえ学生たちへの指導をおこなってきました。研修受入先では学生の受け入れに対して多様なプログラムや体験を計画していただく等、多くの皆様の温かいご支援があったことに心より感謝申し上げます。

学生たちは今回の研修を通して、働くことや生きることの意味、大学での学びの在り方等、自己を振り返る貴重な経験ができました。さらに、これまでと違った多様な環境や多くの人々との関わりの中で、自己を見つめ直したり他者を理解したりする評価基準が豊になり、今後の大学生活に幅が広がったことや大学生活や自分の将来を見つめ直すとともに、社会や周囲の人々にも感心を持つようになるなど多くの成果を得ることができました。

インターンシップ実施にあたり、事前研修（研修先の業界理解、基礎的な業務スキルやマナー等）、実務研修（研修先の担当者との情報交換会、学生の振り返り活動や意見交換会等）、事後研修（今後の学びや将来のキャリアとの接続、事後評価）まで含めたプログラムとして設定し、大学としての取り組みやカリキュラムに位置づけることが教育目的の実現や継続的改善のためには必要です。今後も教育効果をあげるために必要なインターンシップの期間や内容等、プログラムとしての質を高めることが重要であると考えます。また、企業等にとってのメリットや活性化、広報活動等の実現や、受け入れの負担の軽減等を意識していかなければならないことを実感いたしました。

長期間にわたって、学生を受け入れて頂きました前橋市や各企業・団体に対して心より感謝を申し上げます。

（2017 年 2 月）

インターンシップ受入先等の行政・企業・団体

・前橋市　　政策推進課
　　ごみ減量課
　　にぎわい商業課
　　まちなか再生室
　　選挙管理委員会事務局
　　市立図書館
・サンデン環境みらい財団
・エアームーブ住宅　司建設株式会社
・NPO 教育支援協会北関東
・日本赤十字社 前橋赤十字病院